

新学歴社会

選 択 の と き

学校選択制 曲がり角

生徒数の格差深刻に…廃止へ

ある市は

7対167。
前橋市立第二中学校の女子バスケットボール部は、秋の新人戦でこんなスコアで負けました。部員は5人。キリキリの人数しかいない。これではどうにもならないと、7人しかいないバレーボール部と合同練習を始めた。苦肉の策で、バスケット、バレーの双方の部員が一体になるようにした。

減っている。同中の今年の新入生は1クラス分の34人。学区内には50人の子ともがいる。本来なら2クラスできるはずだったが、よその中学に進む生徒が多くなった。「学校選択制」にある。公立校でも、地元の校区か

から離れ、行きたい学校を志望できる制度だ。学校によっては、受け入れられずに抽選になることもある。規制緩和や公立不信が広がるなか、子どもや保護者に「選考権利」を与える。「選ばれる」立場になった学校側は、より良い運営に努力するようになるだろう。そんな考えのもとで広がった。06年の調査では、小学校で14・

2%、中学校で13・9%の自治体で導入している。しかし、人気、不人気が露骨に表れる、残酷な制度もある。前橋市では制度導入から5年がたち、学校間の格差が大きくなった。中学では、学校によって生徒数が1500、600人程度の開きが出ている。

第二中の場合、比較的近い場所に別の大規模な中学がある。部活動などが活発で、学区内の生徒が流れている。恵初男校長は「小規模を生きかした良さはあるが、それにも限界がある」。一度生徒が減り始めると、マイナスの目で見られる。良いイメージに変えるのは難しい。

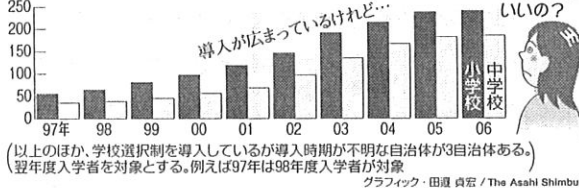
こんななか、同市は9月、選択制を10年度の新入生限りで廃止する方針を決めた。「これまで差が開くとは思わなかった。クラス替えができることが学校の適正規模の最低条件だ」とも市教委は、学校の「統廃合」も今年度から進める。小中合わせて66校のうち10校をなくす計画で、第二中も統合される方向だ。4校を一気に2校にする地域もある。

保護者には「行政は選択制を廃止するに持ち込み統廃合の根拠作りに使ったんじゃないか」と疑い声も出ている。

学校選択制が導入されて…



学校選択制の導入自治体数



02年に全小中学校で学校選択制を導入した東京都江東区も見直しを決めた。これまでは区内全域、どこでも行きたい学校を志願できるようにしていたが、電車やバスで通学する小学生も出てきて、地域のつながりが薄れたことを心配する声が強くなっていった。来年度から、小学校では、歩いて通学できる範囲の学校しか志願できないようにした。また、人気校ではこれまで、地元学区内の子どもの数

ある区は

選択肢減らしても抽選校続出

保護者の気持ちは止まらない。進学内容、施設の実態、家庭の広さ、部活動の活発さ、友だちとの関係……。選択肢が減っても、その中で「より良い」学校を選びたいと心動く。例えば、部活が盛んで校舎が改築されたばかりの深川第三中。来年度の学区内の入学予定者数だけで225人いるが、さらに、他学区から320人の希望申請が出た。抽選は12月11日にあり、学区内の辞退者が出た数だけ順に繰り上がる。行けるか行けないかは、最終的には私立希望者の行き先が定まる2月末ごろまで確定しないという。

富田祥子学務課長は「課題のある学校があれば、予算も満足し、6割が継続を望んだ。一選択制で、まず校長の意識が変わった。でも校長の意識が変わると、子どもたちが力を注いでいるかをしっかりと確認するようにした」。これが同区教委の分析だ。

保護者の6割「続けてほしい」

先進地は

中学で導入して4年たった東京都練馬区は、検証の委員会を設置した。教員への選択式のアンケートでは、約66%が「うわさや風評で学校が選ばれるようになった」と答えた。学校選択制の肝とも言える「学校の願い合いで教育の質が向上した」という項目を肯定した教員は、わずか15%だった。一方、00年に都部で初めて選択制を導入した品川区は「区民に支持されている」と

いう。今年2月のアンケートでは、保護者の5割が制度に満足し、6割が継続を望んだ。一選択制で、まず校長の意識が変わった。でも校長の意識が変わると、子どもたちが力を注いでいるかをしっかりと確認するようにした。これが同区教委の分析だ。

立場によって、大きく異なる評価や見方。制度の行く先

にあるというだけで避けられている学校もあるという。「人気に格差が出ることは選択制を始めるときから予想されたが、思った以上に大きかった」。年を追うごとに増えてきた制度導入の動きも「今後弱まるのではないかとみる。(平岡妙子)

あしたを考える